

令和7年度全国学力学習状況調査の結果 京都市立向島東中学校

4月17日に実施された「全国学力学習状況調査」について、本校の調査結果がまとまりました。中学3年生を対象に、国語・数学・理科の3教科と併せて、家庭での過ごし方や学習時間等についての生徒質問紙も実施されています。生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

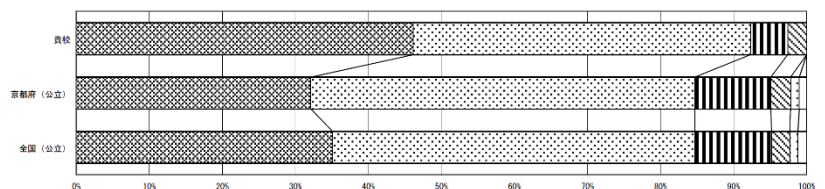
各教科の分析と改善に向けて

国 語	<p>「書くこと」に関する項目では、3年間を通じて粘り強く取り組んできた成果が見られました。また、平均正答率や無回答率は、全国平均と大きな差はみられませんでした。</p> <p>しかし、「語彙」に関する項目に課題が見られ、語彙を増やしていくために、新聞を読む、たくさんの問題を解く、読書をするなど、多くの経験が必要だということがわかりました。</p> <p>生徒質問紙の結果からは、授業での取組を肯定的にとらえている生徒が多くみられました。国語の4つの力「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」それぞれを高めるために、課題に向き合いながら粘り強く取り組んでいくことが求められます。引き続き、探究心を持って学習を深めていきましょう。</p>
数 学	<p>計算問題の正答率が高く、データから必要な情報を読み取り、問題に向かう力も身につけている結果が出ています。</p> <p>その一方で、説明や証明問題においては、無回答が多いことが課題となっています。考えを形成し表現することは難しいかもしれませんが、論理的な思考は、今後生きていく力となります。授業を通して説明や証明問題の解答の書き方を身につけるとともに「なぜ、その考えなのか」を考えることをより大切にしていきましょう。苦手だからといって敬遠するのではなく、粘り強く、少しずつ説明や証明問題に挑戦していきましょう。</p>
理 科	<p>取り扱った現象を身近な事象につなげて考える問題で、成果が見られました。その一方で、必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述するといった問題に課題が見られます。</p> <p>生徒質問紙では、「自然の中や日常生活、授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしている」、「理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できている」と答えた生徒は、正答率も高いという結果が出ていました。授業で大切にしている学び合いと「ふりかえり活動」を軸として、一緒に力を伸ばしていきましょう。</p>

成果①(生徒質問紙調査から)

質問 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □5. 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない ■ その他 □ 無回答

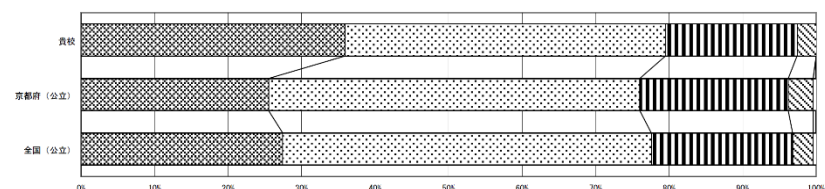


“当てはまる・どちらかといえば、当てはまる”の割合 本校:92.4% (京都市平均:84.6%、全国平均 84.7%)

成果②(生徒質問紙調査から)

質問 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

■1. できている □2. どちらかといえば、できている ■3. どちらかといえば、できていない □4. できていない ■ その他 □ 無回答



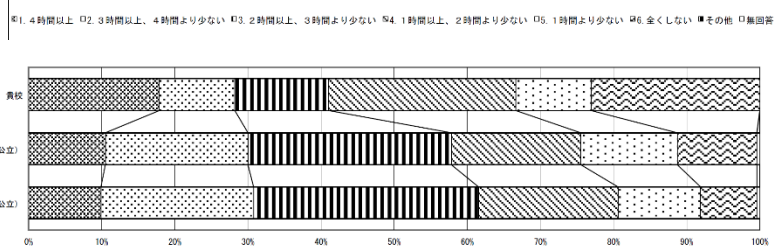
“できている・どちらかといえば、できている”の割合 本校:79.5% (京都市平均:76.0%、全国平均 77.5%)

課題(生徒質問紙調査から)

質問 学校の授業時間以外に、
普段(月曜日から金曜日)、
1日当たりどれくらいの時間、
勉強をしますか。

(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、

インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



“全くしない”の割合 本校:23.1% (京都府平均:10.9%、全国平均 7.7%)

全体を通した本校の成果と課題

生徒質問紙調査から明らかになったのは、生徒たちが「学級の仲間と共に課題に向き合い、自分の見方を広げることができている」という実感を持っていること(成果①)、「広がった見方からより学びたい・深めたいことに取り組もうとする力」が培われていること(成果②)です。割合を京都府や、全国と比べても高い数値を示しているおり、本校の特長として注目したいところです。本校では、令和3年度から学校教育目標「未来の世界をたくましく生き抜く学び手の育成」のもと、学力向上を柱とした学校改革「夢現スキーム」に取り組んでいますが、その軸として取り組んできた「共に学び、共に高め合う」ことの成果が顕著に見られます。これらの力は一朝一夕で育まれるものではなく、3年間の学びで身についた力だと考えられます。

しかし、「学校の授業時間外での学習」について、全国平均・京都府平均以上に学習に取り組む生徒もいる一方で、学習を全くしない答えた生徒が多いため(「課題」)、学力の定着に差が生じる可能性があります。今後、生徒全員が「共に学び、共に高め合う」ことで力を伸ばしていくために、「授業が終わった後も考えたい、学びたい、理解して身に付けたいと思える授業」を通して、学びに向かう力を高めたいところです。

今年度、本校では「没頭」をテーマに、複数教員でグループを組んで授業改善を目指す、新しい取組を進めております。授業研究を重ね、授業課題を共に練り上げたり、生徒を惹き込む授業のしかけについて教科を越えて考えたりすることで、様々な授業で学びに「没頭」する生徒の姿が見られるようになってきています。一人一人がよりよい人生を切り開いていくためには、学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度、自分の思考や行動を客観的に把握し、認知する力も必要です。こうした力が、様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見出したりできることにつながる重要な力となります。引き続き、学校の教育活動全体を通して、たくましく生きていくための素地を培いたいと考えています。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。

今回の結果から、これまでの調査と比べて、学力は着実に伸びてきており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。